
ミールークルム!

『 』の深淵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ミラークルム！

【Nコード】

N4220Z

【作者名】

『』の深淵

【あらすじ】

これは、続くかもしれない物語。

一人の男が起こした、世界の終焉。

今その秘密を明かそう

。

(前書き)

人気があるようでしたら続くかもW

ある場所に存在する孤島に、一人っきりの青年がいた。
その男はしわの入ったよれよれのジャンパーに、意外と小奇麗なジ
ーパンを着た人物だった。
その男の顔は老成した歴戦の戦士の様な眼光と、いたずら好きな活
発な子供の様な印象が同居していた。

「あゝあ、つまんねえな」

……しかしそれも前の話。
今の男はさながら世に疲れきった老人のよう……あ
ながち的外れではない。

青年は世界でも有名なだった。
歴史上の大発見を幾度も起こし、現代のアルキメデスやエジソンと
謳われたほどだ。

しかし余りにも有名になりすぎ、各国から危険視され、密かに命を
狙われる羽目に陥った。

だがその男は性格の面でも風変わり、いや、極度の変人であった。

『え？世界中の国から狙われてる？………うわ、なにそれ面白そう〜！』

………訂正、唯の馬鹿なのかもしれない。

青年は追っ手から逃げた。逃げまくった。

己が開発、発明した道具を使い、誘拐犯や暗殺者を悉く撃退したのである。

しかし彼も人間、やはり逃げるのも限界が有った様で、最終的には世界地図にも載らない極秘の無人島を密かに買い占め、超強力な防壁や、明らかにオーバーキルのトラップを仕掛けまくった要塞を建築し、見事そこに逃げおおせた超人野郎である。

その要塞は年々グレードアップし、最終的にはICBM（弾道ミサイル）や核爆弾を撃ち込まれても、鼻歌交じりに迎撃できるようになった化物要塞である。

それを設計、建築した件の青年は一人、呟いた。

「宇宙、爆発しねえかな」

青年は飽き性だった。

青年にしてみればその逃走劇や命の危機は楽しく、一重に娯楽であった。

しかし男は飽きるのが速い、超速い。それに一人で要塞に立てこもっても、話相手もないし、友人は人質に取られるし、

不愉快極まりない事が起こったのも、それに拍車を掛けたのかもし

れない。

青年は飽いていた。もう一度言う、男はこの世界に飽いていたのだ。

「さてさて、ポチつとな」

さて、青年は今。自身が丹精こめて造ったある装置を作動させた。
その装置の名前は時空間掘削装置。

その装置は文字通り時空に穴を開ける装置である。

普通は時空に穴をそれこそビックバン並みのエネルギーが必要なのだが、そこはそれ。

この青年は変人でキチ○イと呼ばれているが曲がりなりにも開けるなど、世界中に狙われても余裕で迎撃できる男である。

エネルギー変換効率を操るなんて御茶の子さいさいだ。

ちなみにこの装置の正式名称は名づけて『アナホール』……………
……………決して○ナホールではない。

……しかし似ている。ム力つくが、似ている。
勿論この名前は青年が付けた名前である。

青年はこれと似た名前の物があることを知らなかった。

青年はウブであったのだ。

周りの者達は声を大にしてその名前に反対票を投じたのだが、この男の前ではそれも

無力。なぜその名前がダメなのか皆が遠まわしに青年に述べたのだが、男はウブ。

小学生並みの精神である。

それがちゃんと青年に伝わるわけも無く、押し切られてしまったという経緯がある。

因みに時空に穴をあけて何が起こるのかは、男にも分かっていない。

世界が破滅するかもしれないし、穴に吸い込まれてどこかの時空の狭間にも放り出されるかもしれないし、
はたまた謎の物体、もしくは物質が飛び出て来るなんて可能性もある。

男は別に世の中に飽いたからと言っても、自殺しようなどとは微塵も思っていないかった。

まあ行動は周りから見れば、自殺志願者と思えないが。

男は声高らかに叫ぶ。

「It's show time！」

機械が動き、予め定められた空間に異常な磁場と歪み、穴が発生する。

徐々にそれは拡大し、膨張していく。

やがて空間は周りの物を手当たり次第に吸い込もうと暴力的なまでの引力が発生しだした。

……………しかし、吸い込まれない（・・）

にやりと、晒う。

そう、男は何も死のうなんて微塵も思っていないのだから、当然最低限の防御を固めてあったのだ。

周りの物は総て予め特殊な素材で固められている。そのお陰で引力

にも悠々と耐える事が出来るのである。

男は思考する。

『ふむ、やはり世界の破滅とかは起こらないか。予想していた、引力が発生、その後吸い込まれた物は

どこかの時空間に放り出される、というのが当たってしまったか…

……些か面白みに欠ける………!?’

その時、急に青年の予想を超えた引力が、唐突に発生した。

それは今やトルネードの吸引力までも凌駕し、比較できる物が存在しないまでの領域に達していた。

辺りに在った物は一見吸い込まれて無いように見えるが、そんな事は無い。

その引力は物質を原子から分解し、吸い込んでいたのだ。傍から見ればさながら物が砂に還っていく様な光景。

『……………』

それを見て……………。

さて、なぜ未知物質は引力に負けないのか。

それもこの未知の物質、分解される原子が無いのだ。

普通の物質にはそれを構成する更に小さい物質の原子核などが集まった物なのだが、この未知物質は違う。

いうならばその物質自体がひとつの原子核といっても良いだろう。この未知物質は小さな物質の集まりではなく、それ単体で完成しているのだ。

………まあ、ふざけた物質で出来ているとだけ覚えてくれていれば幸いだ。

男は『まもるっくん』に立てこもり、微苦笑しながら呟いた。

「ん〜、この勢いだとこの世界、終わっちゃうかな〜」

その瞬間、凄まじい衝撃が起こり、その青年の意識は、途絶えた。

一つの世界があった。

その世界は一人の男の仕業で、唐突に終焉を迎えた。

総ては原子へと還り、時空の穴に吸い込まれ消滅したのだ。

そう、唯一つ。『まもるっくん』とその中身を残して……………。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4220z/>

ミラークルム!

2011年12月15日00時50分発行